



生成AI「規制を」6割 著作権侵害や偽情報懸念

22161274 川向癒雨

概要

- 公益財団法人「新聞通信調査会」は12日、メディアに関する全国世論調査の結果を公表した。
- 生成人工知能(AI)について「著作権侵害などの悪影響を排除するため、政府は規制を強化すべきだ」と答えた人が59.7%に上り、「規制を最小限にとどめるべきだ」の19.1%を大きく上回った。
- 生成AIの利用者は14.1%で、18～19歳では48.6%が「使っている」とした。

概要

- 生成AIがニュース記事を作成することには、「人の判断が入らず、フェイクニュースがまぎれ込む危険がある」(48.9%)、「記事の責任の所在があいまいになる」(44.5%)と否定的な意見
- 生成AIで作成されたフェイクニュースにだまされない自信があるかを尋ねると「自信がない」が87.9%を占めた。
- 調査は7～8月、住民基本台帳から抽出した全国の18歳以上、5千人を対象に実施。2906人が回答

コメント

- 著作権やフェイクニュースに関する懸念は重要だが、それだけを理由に厳しい規制を加えるのは一面的すぎる。生成AIはあくまでツールであり、その可能性を正しく理解し、活用することで大きな価値を生む。
- 「新聞通信調査会」っというバイアスがあると見たほうが良い気はしますが、それでも慎重な意見が多いと見ておいたほうが良いのですね。

感想

- 現段階では、生成AIに否定的な考えを持つ人が多数を占めていることが分かった。
- 規制に関しては、強化をしてしまうと他国との差が生まれてしまうため、必要ないと感じた。
- ニュース記事に関しては、人間だから本当のことであるわけではないので、話の要約などの活用できる部分では、利用していけばよいと思った。